

間 ~つなぐ~

-成田空港から日本文化発信と地方活性化-

Keywords

情報発信源 特産物 伝統工芸
地方活性化 観光 訪日外国人

1. 序

近年、日本の文化はどこに向かって行っているのだろうか。日本の特色とは何なのか。日本には四季があり、狭い国土にもかかわらず、地方色の豊かさと様々な面で特有の“美しさ”をもつ国である。また、ものをつくる技術力においても世界の先頭に立ってきた日本であるが、今日まで栄えてきた伝統産業は、様々な理由により廃れてきている。地域文化こそ日本の最大の資源であるが、このまま低迷して行ったら日本はどうなるのか。

2. 研究背景

2.1 東京と地方

日本は地方色豊かな国であるが、近年“東京集中”と“地方離れ”が加速している。地方は地元離れにより、色が失われ、働く場所がなくなり、地域存続が難しくなる。地域が存続するためには、地域資源を活性化させる取り組みが行われているが、成功している地域は少ない。まずは、産業の創出や立て直し、地方に新規の住民や観光客の増加、地域特有の文化の担い手を確保と継承を進めていく必要がある。

2.2 ものづくり文化

現代社会は大量生産大量消費の合理主義の時代であり、ネットワークの発達によりワンクリックで買い物ができる社会になり、安価である程度の品質な商品を手に入れることができる。しかしこれらは愛着はすぐに薄れ、次々と消費されていくオリジナリティのないものである。

これらの合理主義に反して、職人が一品一品手で創り出す伝統工芸は世界に誇る文化であり、数えきれないほど日本に存在するが、自分が住む地域の工芸品についてすべて知っている人はどれくらいいるだろうか。

例として、埼玉県指定伝統工芸品を挙げる。(表1)



図1.1 岩槻人形

図1.2 小川和紙

AK11066 高田 一希

表1. 埼玉県指定伝統工芸品

江戸木目込人形 岩槻人形 鴻巣雛人形 春日部押絵羽子板
所沢人形(雛人形) 所沢人形(押絵羽子板) 越谷ひな人形
越谷甲冑 手がき鯉のぼり 越谷張子だるま 竹釣竿
小川和紙(細川紙) 鬼瓦・武州磨き本瓦 熊谷染(友禅, 小紋)
本庄緋 武州正藍染(武州唐棧, 武州型染, 武州紺織)
草加本染ゆかた(本染ゆかた, 長板中型) 飯能大島紬
秩父ぼぐし捺染(着尺, 夜具地, 座布団地) 秩父銘仙
行田足袋 春日部桐箱 春日部桐箆筒

2.3 現在の観光産業

2013年観光産業において、観光ビザ緩和、LCC航空線の発展、円安などが追い風にはじめて訪日外国人旅行者数が1000万人を突破した。この数字は10年前の倍にあたる。2020年の東京オリンピックの開催が決まり、国際線利用の需要が増加すると見られ、政府は訪日外国人旅行者数を2000万人を目標に掲げている。また、日本への観光客の増加は、東京をはじめ、国内航空にも影響を及ぼすだろう。これを機に地域活性化にも関わっていくのではないだろうか。

3. 研究目的

本計画の目的として、日本の文化の在り方について再考し、再構築することと共に、日本の伝統文化を外国人ないし日本人に知って貰う“きっかけ”づくり、首都圏で地方に欠けているPR力を補いつつ日本文化を伝え、地方活性化につなげることが目的である。

4. 敷地

敷地は千葉県成田市の成田国際空港第1ターミナルビルを増築する。成田国際空港は、国内線、国際線の両方を有する。外国から成田を経由し、地方に飛び立つこともできる。外国人が日本で最も利用する空港であり、日本の文化を世界に発信する発信源になる場所として期待できる。また、東京近郊の住民も地方に観光する際に利用し、日本の文化を改めて知るきっかけになる。海外に行く前に日本の文化を学んで行くことのできる場所にもなりうる敷地である。いままでの出発までの“間”を喫茶店で時間を潰したりするのではなく、様々な形で日本をのしる有効な時間を提供できるのではないかと考える。
敷地面積：12,500㎡
延床面積：11,325㎡



図2 対象敷地

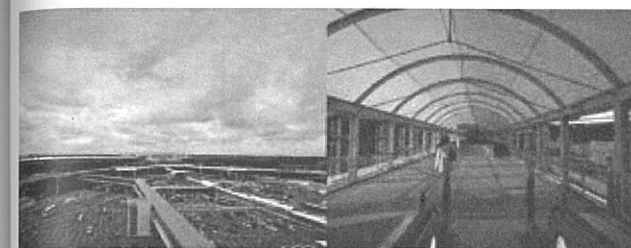


図3.1 敷地写真

図3.2 現在の連絡動線

5. 設計概要

5.1 設計趣旨

日本には、海外に誇る様々な文化がある。伝統文化、食文化、歴史、観光名所、芸能文化などと、世界へ流通すべきものばかりである。しかし、日本人は自国の文化を軽視している。海外の文化を取り入れすぎて日本の文化が消えていっているのではないだろうか。また、日本人は自国の文化にもっと関心を持ち誇りを持つべきであり、海外文化をただ取り入れるのではなく、1つ1つ特色ある日本の文化を地域内で似たようなもの同士で競合し合うのではなく、異なったレベルの高い文化の中で刺激し合ったり競合したりする場が必要なのではないか。そこで本計画は、日本の文化を世界(日本)に流通する、継承する建築を計画する。

5.2 プログラム

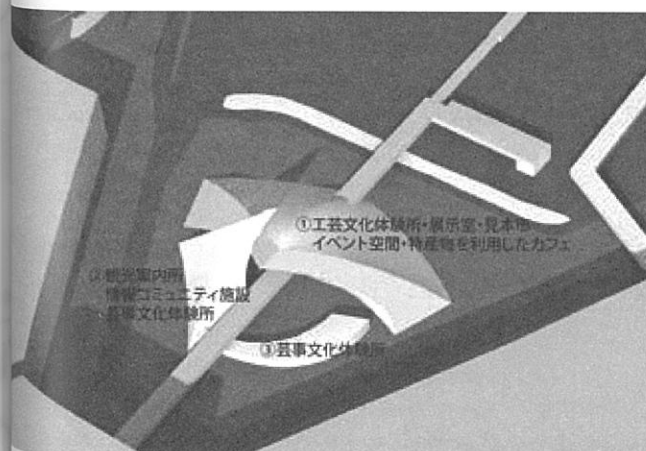


図4 プログラム計画図

① 工芸文化体験・展示室・イベント空間・見本市・カフェ
日本の文化を擬似体験する施設を5つ。

ガラス細工/陶芸/手漉き和紙/絵付け/染め物

これら5つの伝統工芸においても各地域ごとと特徴ある創られ方をしている。これらをサイクルさせることにより来るたび違う文化を体験できる。展示室・見本市はこれらに関連の強い商品を展示・販売する。特産物を利用したカフェを設け地方の食文化に触れる。

②観光案内所・情報コミュニティ施設・芸事文化体験所

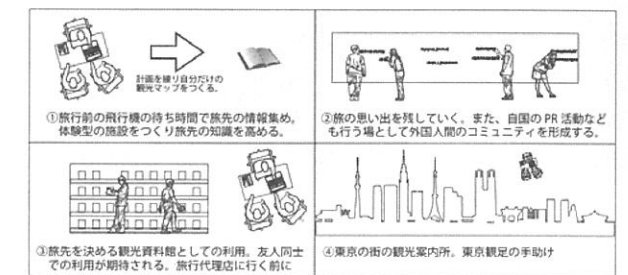


図5 観光案内所の提案

図5の観光案内所や海外や日本への情報発信の場となるコミュニティスペース等

③ 芸事文化体験所・休憩所

茶室(2, 727×2, 727)

書道/華道/折り紙/三味線/琵琶/尺八等
(2, 727×3, 636)

着付け(5, 454×2, 727)

多目的室(5, 454×5, 454)

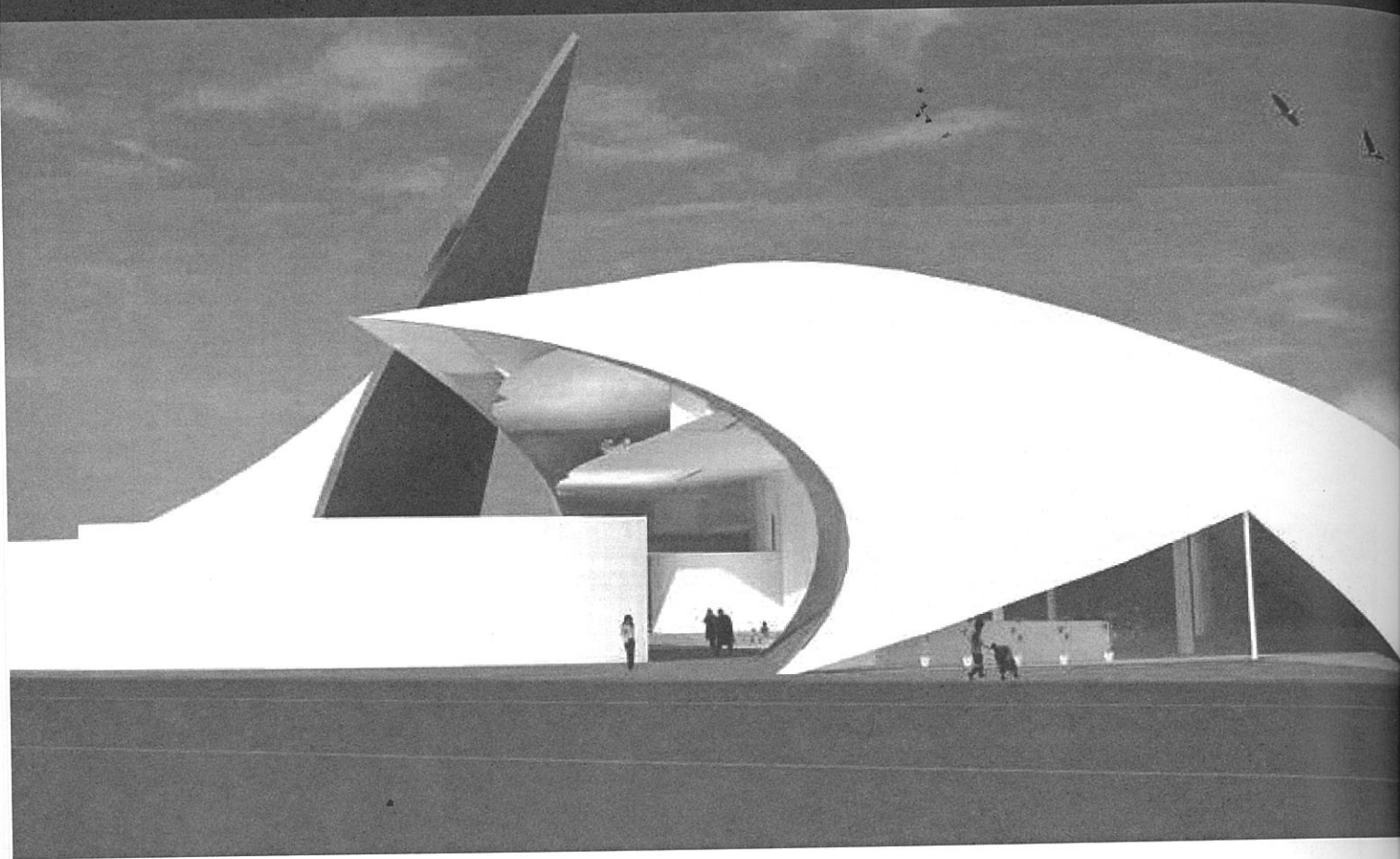
休憩所には足湯スペースを設ける。

6 結

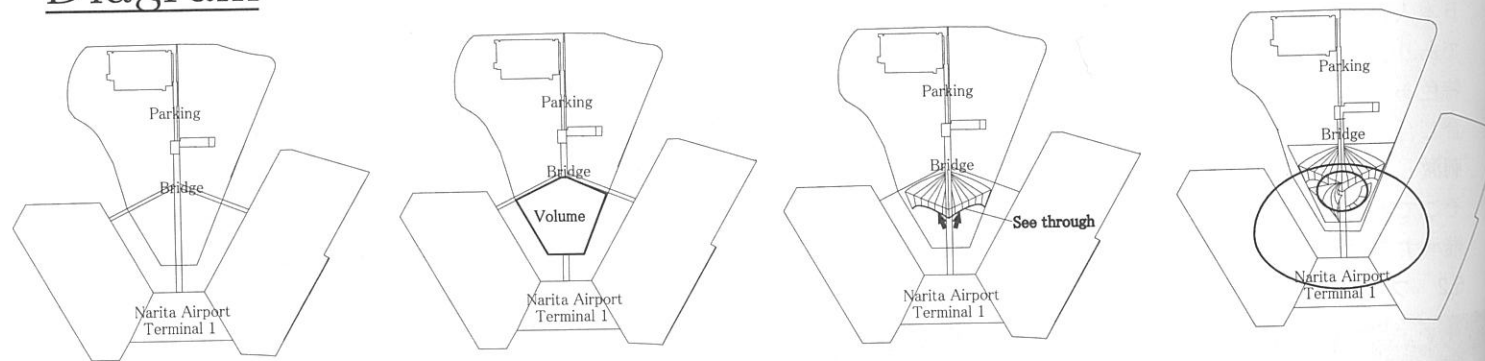
本計画において、日本の文化を多くの人に知らせるきっかけの場になり、世界(日本)に文化の発信源として一品生産の伝統工芸の継承、地方への観光人口を増加させると共に、現代人の失われつつある価値観を取り戻すことにより、日本が誇りある国と再認識できるのではないだろうか。

参考文献

- 1) 「世界の美しい空港」 蓮見清一 宝島社 2012
- 2) 「観光・レジャー施設の集客戦略」 山口有次 地研 2008
- 3) 「DESIGN BUSSAN NIPPON」 ナガオカケンメイ 美術出版社 2008
- 4) 「地域発のデザイン」 PIE 2011
- 5) 「地域を変えるデザイン コミュニティが元気になる30のアイデア」 寛裕介 英治出版株式会社 2011
- 6) 「Santiago Calatrava The Complete Works-Expanded Edition」 Alexander Tzonis 2007
- 7) 「伝統工芸 - 埼玉県公式観光サイト ちょこたび埼玉」



Diagram



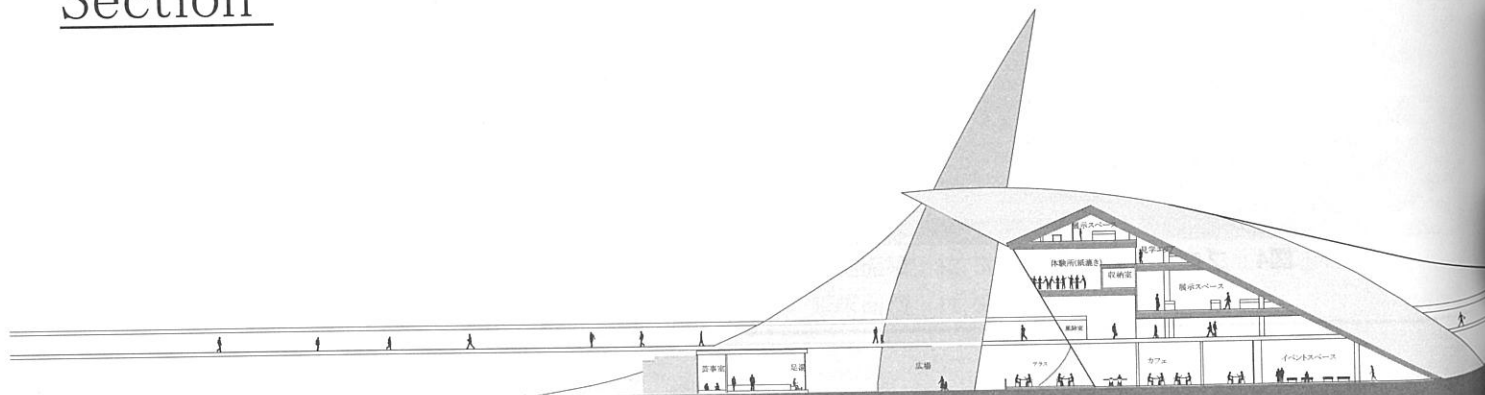
① 駐車場と空港の連絡動線としてのみの使用。

② つなぐだけでなく、動線上にボリュームとして配置する。

③ 伝統工芸を体験している光景を橋や空港から見えるように包み込むように配置する。

④ 包み込まれた空間の中で、新たなボリュームを与えることにより情報や文化交流が増加される。

Section



Plan

